

就学前の子どもの教育・保育のあり方に関する基本方針について

1 パブリックコメントの結果

(1) 実施状況

- ア 期間 平成 30 年 1 月 4 日（木）から平成 30 年 2 月 2 日（金）まで
- イ 場所 市ホームページ、市役所 2 階情報公開コーナー、浅羽支所 1 階ロビー
月見の里学遊館 1 階市民サロン

(2) 意見の提出について

- ア 人数 2 人

イ 内容

No.	頁	意見・提言等の概要	市の考え方
1	2	<p>1 就学前の子どもの教育・保育の現状と袋井市における課題</p> <p>(2) 保育ニーズの移り変わり</p> <p>◆魅力ある幼稚園教育とするため、例えば地域で子育てしている保護者を対象に空き教室を利用した子育てひろばの開催や2歳児保育の導入などについて検討してはどうか。</p> <p>◆子どもを取り巻く関係機関（教育・保育、保健、医療、福祉など）との連携が大切であることから、よりきめ細やかな情報提供や相談のあり方について検討してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における子育てへの支援として、家庭の中のみでの孤独な子育てをなくし、子育て家庭が親子で集まり、相談や情報交換・交流ができる場所や機会の提供に努めるとともに、身近な地域の様々な世代の方々が親子を応援できる環境整備を推進します。 また、幼稚園においては、2歳児を対象に体験入学を実施し、安心して幼稚園へ入園できる環境を整えております。 ・子育て支援サービスに関する情報が必要としている保護者等に届くよう、保育コンシェルジュやスマートフォン向け子育て応援アプリなどによる情報提供を行うとともに、保護者の育児に対する多様な相談体制を充実します。

2	6	<p>2 袋井市の就学前の子どもの教育・保育のあり方について</p> <p>(1)ソフト面</p> <p>イ 就学前の教育・保育の質の向上と公立幼稚園の役割について</p> <p>(ウ)特別支援教育の先導的役割を担う</p> <p>◆袋井市は子育てに関わる職員の並々ならぬ情熱を感じる一方で、経験値や知識に差があるように思われる。予算と時間をかけて、根の太い人材育成の継続を望む。</p> <p>◆異校種交流などを進め、積極的な情報発信により、障がいの有無に関わらず、お互いを正しく理解し、安心して生活できる環境づくりを促進してほしい。</p> <p>◆必要な行政サービスを受けることができるよう行政の横断的対応、情報提供を行い、適切な支援に繋がっていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的な見通しをもって教育・保育の質の向上を図るためには、保育士、幼稚園教諭など職員の待遇や研修を充実させていく必要があります。適正な職員数の確保を図るとともに、階層別研修や指導訪問などの取組を通して経験の豊かな職員がノウハウを継承し、若い職員をサポートできる環境づくりに努めます。 ・子ども達の「生きる力」を育み、将来へ繋げるため、公立幼稚園が特別支援教育の拠点施設として先導的な役割を担い、市内の教育・保育施設と知識や経験を共有してまいります。 ・多様な保護者ニーズに対応するため、子育てに関わる組織がより連携を図ってまいります。
3	10	<p>(2)ハード面</p> <p>イ 袋井市立幼稚園の統廃合について</p> <p>◆統廃合は、園児数が少ない場合は必要であると納得できる。延長預かり保育等により公立幼稚園を活かしてほしい。共働き家庭でも可能であれば、学校の学区の幼稚園に通わせたい方は多いと感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園につきましては、就学前の子どもの教育・保育の基準的な役割を担う拠点となるとともに、地域に根ざした園として発展していくため、子育て支援など保護者のニーズに応じた工夫や努力をしております。